

台湾における原住民^{注1}による社区营造の課題

台東県成功鎮三仙里アミ族の社区营造を事例に

The Issues of Community Development by Indigenous People in Taiwan

- A Case Study in Sansen-Li, Tai-dong County -

佐々木孝子* 星野 敏* 九鬼康彰* 橋本 禪*

Takako SASAKI* Satoshi HOSHINO* Yasuaki KUKI* Shizuka HASHIMOTO*

(*京都大学大学院農学研究科)

(*Graduate School of Agriculture Kyoto University)

I 背景と目的

1 背景

社区营造^{注2}とは、台湾で進められている参加型まちづくりである。その先駆となった文化建設委員会(日本の文部科学省にあたる)による社区総体营造計画(1994)は、中央政府(行政院)が1960年代以降実施している社区を単位とした地域発展政策の中で、社区营造を中央政府及び地方政府・社区・専門家の協働で進め、経済的支援は中央政府が行うと規定し、内容がハード整備からソフト面の重視へと転換した点が画期的であった。社区の範囲設定も、県等の行政区をまたがないことを条件に住民の判断に任されている。社区营造を担う社区発展協会(以下、協会)は、20歳以上で社区内に戸籍を持ち、居住する住民が加入するが、年次大会への出席以外、参画は必須ではなく、活動計画の作成・申請・実施は理事会が行う¹⁾。社区营造は、協会を設立して地方政府または中央政府に活動計画を申請し、審査を経て中央政府から活動補助金が渡るという手順で開始される。

社区総体营造計画は、日本のまちづくり政策も参考に策定したとされ、社区营造はまちづくりに相当するといわれることも多い²⁾が、地域づくりの環境において、台湾は日本と以下の2点で異なる。

第1は台湾が多民族国家で、マイノリティの問題が常に存在する点である。全人口の約2%を占める原住民は、長くマイノリティの立場に置かれていたが、2000年前後から国家レベルで地位の向上が指向されるようになった。行政院原住民族委員会(2005発足)による政策では、社区营造に传统文化の復活や民族のアイデンティティ形成を盛り込んでいる他、特に921大震災(1999)以後、復興と共に地域の経済的自立を願い、原住民の社区营造は生

活の各方面において多様な展開を見せている。

第2の相違点は、地縁的な「コミュニティ」の性格が弱い点である。従来の生活様式では、コミュニティの基本単位は家族であり、その範囲は親族集団(拡大家族)であった。漢族に見られる「会」は地縁組織であるが、基盤は個人の繋がり³⁾とされ、原住民を含め、日本の農村に見られる自治会等の地縁的な住民自治組織は基本的に存在しない。従って、協会という住民組織による社区营造も、この政策の新しい試みであった。

2 研究の目的

原住民による社区营造に関する研究は、921震災後急増し、传统文化の復興や民族アイデンティティの形成を軸に、様々な事例⁴⁾が蓄積されている。「传统文化の復興」とは、伝統の再創造⁵⁾であり、そこには民族の生活や社会構造が反映される。しかし、都市化・近代化により、民族の伝統・文化が既に失われている地域も存在する。この場合、社区营造において、伝統の再生と生活との相克が懸念されるが、これに着目した研究は見られない。意図された成果を挙げられない例も多数存在する中で、成功要因や課題の解決法の議論だけでなく、成功しない要因を探ることも必要と考えられる。

そこで本論では、原住民による社区营造に焦点をあて、一部族であるアミ族の、台東県成功鎮三仙里の事例を取り上げた。本事例は、3年間で活動を大きく展開し、中央政府にも原住民による活発な社区营造の取り組みとして知られるが、後述するように、住民の参加水準は高くない。歴史を背景として、何らかの要因が、住民の参加を阻んでいると考えられる。この要因が明らかにされ、克服されなければ、アミ族の伝統をアイデンティティとして再創造しようとすることは困難である。本論では、三仙里の社区营造の経緯を述べると共に、課題を明らか



図1 三仙里の位置
Fig.1 The location of Sansen-li

にし、住民参加の阻害要因を考察することを目的とする。

3 アミ族の概要

文献調査を元に、アミ族の部落の構成と、生活の変化について整理する。アミ族は主に台湾東南海岸部に居住し、多く漢族と混住している。他の原住民の脅威や漢族の進出による摩擦を避けて移動を繰り返した歴史を持ち、調査地付近のアミ族は19世紀末ごろに現在の地に定着したとされる⁶⁾。

アミ族の部落は元来、頭目を首長とし、男子による社会組織と、女子を中心とする親族集団によって構成されていた。男子は部落外にでかけ、女子は家を守るという役割分担がある。男子が属する社会組織には、行事の運営を通じて規範を伝える他、交渉等の対外的な活動や、犯罪や紛争の処理等、部落をまとめ、共同意識を培う役割があった。一方、女子を中心とする親族集団が異なれば、部落内でも交流せず、問題の解決や生活環境整備は基本的に家族単位で行われた⁶⁾。

しかし、第2次大戦後、キリスト教と近代化・都市化により、アミ族の生活は大きく変化する。キリスト教はオランダ統治時代(17世紀)に伝えられ、20世紀初頭には近代医療の導入と隣人愛の教えで広く受容された。原住民間では社会的安定が得られ⁷⁾、戦後の混乱が落ち着く1950年頃から布教が急激に進んだ。しかし、土着の文化を否定したことで、地域によっては、祈禱師の減少等伝統の衰退を引き起こした例が見られる⁶⁾。また、生活の近代化や都市化により、頭目の役割が地方政府の行政機構に移行し、若年層が都市へ流出する等、社会組織が弱体化し、過疎化や高齢化が進むことになった。

II 研究の方法

1 分析の枠組み

当初、参加の阻害要因として、住民に社区としての共同意識が弱いこと、及び住民をまとめ、政府や他のリーダーと連携しつつ、社区營造に関わるリーダーがいないことを想定した。そこで、分析1では、社区營造への参加状況・評価・意識及び伝統的な親族集団意識を分析し、住民の共同意識の範囲と程度を考察した。次に分析2で、住民の生活との関わりから、地域リーダーの役割を明示し、頭目が持っていた部落統括の役割が継承されているか考察した。更に、分析の過程で生活におけるキリスト

表1 分析の枠組み

Table 1. The structure of the analysis	
分析1	住民の参加意識と主体性の認識
	①協会とその活動に対する参加度と評価
	②活動に対する主体性の認識
分析2	地域リーダー及びキリスト教が地域に果たす役割
	①地域リーダーの役割と伝統的な頭目の役割の継承
	②キリスト教が伝統文化復興に対する意識に及ぼす影響

表2 アンケート項目とそのカテゴリ

Table 2. Items & categories of the questionnaire	
1	回答者の属性項目
1-a	名前
1-b	性別(男性・女性)
1-c	年齢(20代・30代・40代・50代・60代・70歳以上)
1-d	職業(農業・漁業・会社員・自由業・主婦・学生・無職)
1-e	世帯同居人数(記入式)
2	生活の変化に関する項目
2-a	20年前(戒嚴令解除)と比べて変わったか(3段階)
2-b	10年前(協会設立)と比べて変わったか(3段階)
2-c	変化した内容(自由回答)
2-d	現在の生活に対する全体的な幸せ感(3段階)
2-e	現在の生活に対する満足度(3段階: 便利さ・就業の機会・教育の程度・医療の充実度・治安)
3	社区発展協会とその活動に関する意識項目
3-a	加入・非加入の別
3-b	行事への参加度(3段階)
3-c	活動開始後の生活の変化(3段階)
3-d	部落活性化への期待(3段階)
3-e	変化した内容(自由回答)
4	参加意識/主体性に関する項目
4-a	行事や活動を担うのは(自分を含む・含まないに関わらず)組織である(3段階)
4-b	行事や活動を担うのは(自分を含む)住民である(3段階)
5	生活上のリーダーと目される役職者への意識
5-a	生活上の問題を相談する相手(里長・民意代表・理事長・頭目・その他)
6	伝統復興に関する項目
6-a	伝統文化復興に賛成する(3段階)
6-b	伝統的なしきたりは煩わしい(3段階)
7	住民の繋がり
7-a	付き合いの程度(3段階: 皆と毎日話す・部落の人は助け合う・部落の人をよく知っている)
7-b	困った時の相談相手(家族/親戚・近所の人・友人・地域リーダー・その他)
8	政策に対する部落活性化の期待度(3段階)

教の役割の重要性が明らかになったため、住民の伝統文化復興に対する意識の分析及び社区營造とキリスト教の関係を追加した(表1)。

2 対象調査地の概要と調査方法

台東県成功鎮三仙里(人口1,855人、世帯数634; 2010年6月⁸⁾)は台東市の北約6.5キロに位置し(図1)、白守蓮、高台、芝田、基聖の4つの部落^{註3)}で構成される、アミ族と漢族の混住地域である^{註4)}。2010年10月21日から11月3日まで滞在してアンケート、ヒアリング及び参与観察を行った。アンケート項目(表2)は、属性の他、親族集団意識、住民のつながり及び協会とその活動に対する住民の意識を問う構成とし、政策への期待度(項目8)は、協会への期待度(項目3)と比較するために設けた。

アンケート調査の対象は、協会への加入資格を考慮し、20歳以上の住民としたが、サンプリングは難航した。戸籍簿から作成された里長選挙人名簿で20歳以上住民の数を算出して母集団としたものの(2010年5月: 1,493人)、定住人口の統計がなく、また、里長からの配布もで

きなかった。結局、白守蓮に住む社区発展協会理事長(以下、理事長)の協力を得て白守蓮を中心とする調査となった。戸籍簿が非公開のため部落別の人口は把握できなかったが、鎮の担当者へのヒアリングで、白守蓮は4部落中規模・人口及びアミ族の人口比率が最大と三仙里の住民間で認識されており、店舗が存在し、協会の本部が置かれる等中心性があるため、調査は妥当と判断した。日中は留守の家が多い上、高齢者は識字率が低く個別調査が難しいことから。アンケートはキリスト教会等住民が集まる場所で行い(延べ9回)、居合わせた20歳以上の住民に配布した(総数130)。124件回収し、その内有効回答は118件であった(回収率95.3%・有効回答率95.1%、アミ族118人・漢族2人)。地域リーダーと目される里長・民意代表(代議員)・理事長・頭目・理事長の所属するキリスト教会幹事(表7)には別途ヒアリングを行った。理事長には社区营造活動の他に、年間行事についても聞いて整理した。他の役職者には、職務内容と協会との関係について聞いた。キリスト教については、正確を期すため、文献調査の後、アミ族男性に日本語でヒアリングを行い、その内容を確認した。キリスト教会での調査が多かったため(アンケート回収数の約86%)、宗教に関する項目は割愛し、礼拝及び茶話会に参加して参与観察を行った。また、アンケート実施と同時に個別にヒアリングを行う他、アンケートを記名式にし、後日補足的に面談または電話でのヒアリングを行い(15名)、記入不備を補うとともに、意識の掘り下げや生活の営為等広範な情報が得られるようにした。更に、Paw-paw鼓(後述)練習中の高校生(6名)にもヒアリングをした。

前述の事情により全数調査ができず、このような調査方法を取らざるを得なかったことで、属性等に偏りが生じた可能性はあるが、実行できる最良の方法であったと考える。三仙里におけるキリスト教の位置づけ(後述)から、キリスト教会で得た情報を住民の一般的な傾向と見なすことに大きな問題はなく、本調査が、いわば理事長の勢力範囲内で行われたという意味で、社区营造の推進に最も関与できる環境にあるアミ族住民の意識のデータが得られたため、分析可能と判断した。

III 調査・分析の結果

1 社区発展協会と活動の概要

まず、理事長へのヒアリングで把握した協会と活動の展開過程を述べる。協会は1999年に漢族住民を初代理事長として設立され、加入は約200名^{注5}である。活動を開始したのは理事長(アミ族女性)が就任した2007年で、当時三仙里は人口減少による活気の低下や青少年の非行増

加等の問題に直面していた。理事長は協会設立当初から理事として関わる他、里長を経験する等リーダー性もあり、社区营造活動によってまずこれらを解決し、最終的に「アミ族の伝統文化を復興して観光産業を導入し、雇用を創出して経済的自立を図る」という構想を持って就任した。これまでの活動(表3)は全て理事長が単独で企画・申請を行っていた。報告書類等が公開されず、参加人数等の詳細なデータはないが、伝統工芸教室や民族衣装の作成は懐かしさや物珍しさに盛況であったという。青少年成長班は、放課後の勉強会やアミ族語教室等の活動を行う等、子どもの居場所を作ることで非行防止を目的とし、更にPaw-paw鼓隊を発足させた。Paw-paw鼓は、理事長が考案した、漁業ブイを再利用した太鼓である。伝統楽器ではないが、これを使用してアミ族の伝統楽曲が再現され、活動が台北市等で知られるようになったことから、2008年度には部落音楽会が開催された。2009年度には、豊年祭を復活させている。2010年度は、観光拠点となる社区休暇活動センター建設の申請が認められたが、作業の遅れにより助成金が減額された。以前に理事長の助成金着服の噂がたったことがあったが、助成金の減額で「独断的」等理事長への不満が再出した。社区营造活動が住民の支持を十分に得ていないことを理事長自身自覚している他、社区营造活動はアミ族が対象であるため、里内の漢族は無関心だと思おうという話だった。

2 住民の参加意識と主体性の認識

(1) 協会への加入状況

表4から、協会への当初の加入は、成年住民の6割強と推察され、当該地域の加入率が里内で高かったことがわかる^{注5}。農業、主婦等、部落内で就業する住民の加入が多い。女性の回答者が男性より3割程度多いが、加入率では男性が高い(男性65%、女性54%)。男性の方が社区营造への関心が高かったとも考えられる。

(2) 社区营造に対する住民の参加意識と主体性

クロス集計で、住民の社区营造に対する参加意識と主体性の認識に最も顕著な差がでた項目は、当然とはいえ、協会への加入の有無であった。その結果を表5、表6に示す。数値は、加入(n=59)・非加入(n=40)・DK/NA^{注6}(n=19)のそれぞれの人数を100とした時の「そう思う」「どちらでもない」「思わない」の各回答の割合である。

(i) 協会とその活動に対する参加度と評価(表5)

これらの設問で加入者が賛同する割合が最も高いのは当然と考えられるが、非加入者やDK/NAでも半数あるいはそれ以上で肯定的な回答をしている点が注目される。漢族住民も「行事に参加する」としており(ヒアリング)、その理由として、第1に、部落の行事には全住民が参加できる仕組みであることが考えられる。第2に、「子ども

の面倒を見てくれる」(ヒアリング: 15人中7人)や、青少年成長班の活動を通して「部落内に同じ世代がたくさんいることがわかり嬉しかった(2人)」「居場所ができて毎日が楽しくなった(2人)」等、活動が教育面を中心に住民から評価を得ていることも考えられる。

しかしアンケート実施時のヒアリングでは、回答者は行事の主催者を「里」「キリスト教会」と分けたが、社区營造活動については加入者でも大多数が「理事長」とした(表は割愛)。協会に対して全般的に肯定的な評価をしているものの、協会とは理事長であり、社区住民の組織であるという認識は弱いことが明らかになった。

(ii) 活動に対する主体性の認識

加入者の中で、社区營造による活性化への期待が政策と同程度にあり、組織の活動を担うのは住民だという意識も特に高い(表6)ことから、加入者は社区營造を支持しているといえる。それにも関わらず、住民組織による活動と認識されていない理由は、「今後協会にできることは何か」というヒアリングの間に対する回答(回答数8)の主語に現れた。「理事長」が3人、「皆」が5人で、その内の3人は、「皆」とは「理事長」を指すとし、後の2人は「(自分以外の)皆」であった。主語を理事長とした6人の内、5人は理事長の熱心な支持者(ヒアリング)でもあるが、「(社区營造は)私たちではなく理事長の仕事(2人)」との声も聞かれ、前節と合わせ、社区營造活動の主体は理事長個人と認識されていることが示された。理事長が説明会等を開く一方で、住民間には「説明がない」との声が聞かれ、意思疎通が非効率である様子に加え、社区營造に参画する機会がないこと、及び「生活を良くするのは政府や理事長等の上に立つ者」という強い認識が参加意識の育たない理由と考えられる。

一方、「経済状況が悪く、人口流出が続いている」ことが問題視され、生活に関わる各項目の満足度も高いとはいえないにも関わらず(図2)、半数以上(66.2%)の回答者が現在幸せだと答えている。危機意識が弱いことも、参加意識が見られない一つの理由であろう。幸せ感は女性の方がより高く(図3)、よく話す相手が「家族・親戚」(女性約70%)であることから、親族集団の性格に顕著な変化はないと思われる。「活動を担うのは住民」という設問で判断を避ける率(DK/NA)が高く(表6)、ヒアリングでは「そんな難しいことは私には関係ない」との声が聞かれた。自分たちが現在幸せならよく、地域の問題が「共通の関心¹⁰⁾」になっていないことが伺える。

3 地域リーダー及びキリスト教が地域に果たす役割

(1) 地域リーダーが果たす役割

民意代表と里長(鎮に所属)は、彼らの職務が直接住民の生活に関わっていると認識している(表7)。ヒアリン

表3 社区發展協会の活動概要

年度	内容	目的
1999	・仙里社区發展協会設立	補助金の確保
2007	・季節(母の日・中秋等)の集い ・部落内清掃活動 ・有機肥料教室 ・社区發展協会活動センター開設 ・伝統工芸教室 ・民族衣装作成 ・青少年成長班活動	住民の気持ちをまとめる 伝統文化の復興と発展
2008	・Paw-paw 鼓隊 ・部落音楽会	子どもに積極的に参加してもらう
2009	・豊年祭開催(里と共催)	伝統文化の復興と発展
2010	・休閒活動センター建設	観光産業振興

表4 アンケート回答者の年齢・職業・協会加入率 (n=105)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代~	% ¹⁾
農業	0	0	8	9	10	13	37.6
漁業	0	0	0	4	5	1	9.2
会社員	1	2	3	3	0	0	8.3
自由業	0	3	1	3	3	1	10.1
主婦	0	3	7	7	3	6	24.8
学生	5	0	0	0	0	0	4.6
無職	1	0	1	0	0	0	1.8
その他	1	1	0	1	0	0	3.7
合計	8	9	20	27	21	22	100.0
加入率	12.5	33.3	68.4	65.4	56.3	75.0	

* 男性45人 女性60人(無回答を除く)・単位は人、加入率は%
**各職業が回答総数に占める割合

表5 社区營造活動への参加と評価 (n=118)

		そう思う	どちらでもない	思わない	DK/NA	合計
行事や活動に積極的に参加	加入	59.1%	11.5%	13.1%	16.3%	100.0%
	非加入	46.0%	20.0%	18.0%	16.0%	100.0%
	DK/NA	57.9%	10.5%	15.8%	15.8%	100.0%
活動開始後生活が変わった	加入	73.8%	4.9%	8.2%	13.1%	100.0%
	非加入	52.0%	10.0%	10.0%	28.0%	100.0%
	DK/NA	63.2%	0.0%	0.0%	36.8%	100.0%

表6 協会への期待と主体の認識 (N=118)

		そう思う	どちらでもない	思わない	DK/NA	合計
社区營造は部落を活性化	加入	62.3%	6.6%	11.5%	19.6%	100.0%
	非加入	46.0%	20.0%	18.0%	16.0%	100.0%
	DK/NA	57.9%	10.5%	15.8%	15.8%	100.0%
政策は部落を活性化	加入	62.3%	6.6%	11.5%	19.6%	100.0%
	非加入	54.0%	9.0%	9.0%	28.0%	100.0%
	DK/NA	47.4%	10.5%	5.3%	36.8%	100.0%
活動を担うのは住民	加入	67.2%	3.3%	8.2%	21.3%	100.0%
	非加入	40.0%	22.0%	8.0%	30.0%	100.0%
	DK/NA	52.6%	5.3%	0.0%	42.1%	100.0%

グによれば、彼らへの評価は、在職中にどれ位素早く住民のハード整備に係る要望を把握し、事業を実施できたかで決まるとのことで、「生活問題が起こった時の相談相手」を女性回答者の35%、男性回答者の44%が地域リ

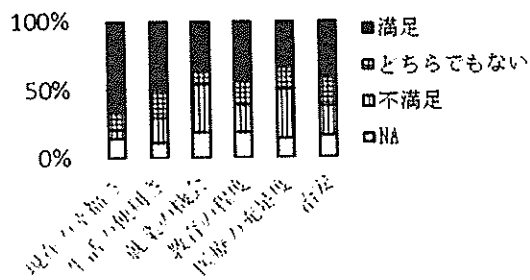


図2 生活への満足度 (n=118)
Fig.2 Are you satisfied your life?

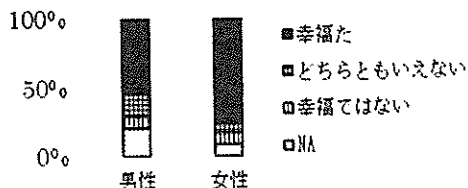


図3 性別による幸せ感の差 (n=105 男性 n=45 女性 n=60)
Fig.3 The gap of happiness feeling between the distinction of sex

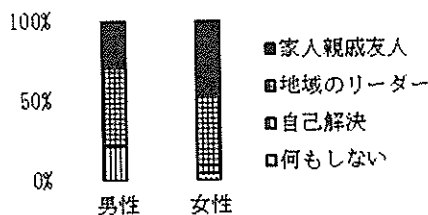


図4 生活上問題が起こった時の相談相手 (複数回答 男性 n=45 女性 n=60)

Fig.4 A person who you ask an advice when in a problem

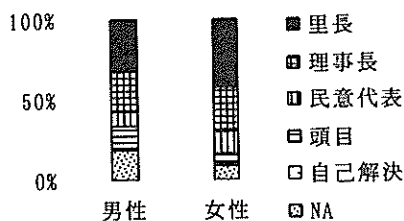


図5 相談する地域リーダー (複数回答 男性 n=45 女性 n=60)

Fig.5 A leading person in the settlement whom you ask an advice when in a problem

ダーと答えており(図4)、実際、最も相談される率が高い里長(図5:全回答者の41.5%)に持ち込まれるのは、住民へのヒアリングではハード整備の要望である。ハード整備は政策の重要な柱であり、里長等が公共事業等政策を確実に実施することで、「地域の発展とは政府がするものだ」という意識が定着し、生活環境整備という親族集団の役割の一つが行政機構に移行したといえる。頭目(12.3%)は、前頭目の死亡後に、前里長の依頼で就任したとのことで、経済支援の伝手があるために相談に来る住民はいるが、職務は祭礼の運営のみということであった。キリスト教会幹事を挙げた回答者はいなかった。住民は、理事長(28.3%)には家族の問題を相談する等、使い分けを

表7 ヒアリングによる地域リーダーの職務認識
Table 7 The job specifications of leading people by interviews

役職	民意代表	里長	頭目	理事長	キリスト教会
選出	選挙	選挙	選挙	選挙	推薦・協議
任期	4年	4年	不明	4年	終身
管轄地域	成功鎮	三仙里	不明*	三仙里	部落**
職務内容	・鎮の管理 ・里長のサポート ・ハード整備 ・住民の生活支援 ・政策伝達 ・里民大会開催	・里の管理 ・ハード整備 ・住民の生活支援 ・政策伝達	・祭礼運営	・社区營造	・礼拝執行

*従来は河川等による自然境界があったという

**教会は部落ごとに設置・運営されている

表8 伝統文化復興に対する意識 (n=118)

Table.8 The conscious about renaissance of tradition

		そう思う	どちらでもない	思わない	DK/NA	合計	
伝統復活に賛成する	加入	76.8%	3.0%	10.1%	10.1%	100.0%	
	非加入	52.7%	19.5%	8.3%	19.4%	100.0%	
		DK/NA	60.0%	5.0%	5.0%	30.0%	100.0%

している様子が見られる他、最初に相談に行き解決しなかった場合は他に行き頼むといった行動をとっており、リーダー間に連携はなかった。リーダーは、基本的に独立の立場をとっており(ヒアリング)、親族集団を頼らずに問題を解決する傾向が強まる一方で、「部落を統括し、共同意識を高める役割」は喪失したままであることが浮かび上がった。また、頭目及び民意代表には、理事長に共感できない様子も観察された。個人の成功に対して部落内で起きる対立行動の報告があるが⁶⁾、理事長の強い使命感による単独行動が同様の事態を惹起しているとも推察される。

行政と社区營造との関わりについては、里長・民意代表等地方政府の末端機関には、社区營造に関する職務の規定はないため、前里長(アミ族)が協働の姿勢をとっていたのに対し、現里長(漢族)及び民意代表(アミ族)は、「関与の必要はない」としており(ヒアリング)、個人によって関与の程度は異なる。更に、参与観察では民族間の衝突は見られないものの、現里長が「アミ族の社区營造は漢族には関係ない」と話し、理事長が漢族を社区營造の対象としない等、制度に従って設定された社区が原住民と漢族の混住地域である場合、社区營造が難しくなる可能性が暗示された。

(2) キリスト教が果たす役割

三仙里のアミ族住民の殆どがキリスト教徒とされ(ヒアリング)、キリスト教は広く受容されている。礼拝は週に3回程度あり、信徒の家で行われる場合は茶話会もあって交流が深められている。合唱隊等宗教活動の他、運動会等の世俗的行事も主催する等、生活に占めるキリス

ト教の割合は高く、参与観察では、文献に報告のあった行事や慣習も見られなくなっている。伝統復活への意識(表 8)については、肯定感が加入者を筆頭に全体的に高い中で、加入に関して DK/NA である回答者の無回答率が高いことが注目される。教義への強いコミットメントと、自らのアイデンティティと深く結びついた伝統文化への思いとの葛藤状態の現れである可能性があるからである。ヒアリングで「三仙里が“遅れた” 伝統文化を棄てられたのは、信仰心がどこよりも篤かったため」「社区营造はキリスト教に反してはいけない」等の話が聞かれ、キリスト教会幹事が「理事長を支持するが、立場上支援はできない」とするように(ヒアリング)、参加を阻害する要因の一つが、個々の住民の宗教的見解であることが読み取れると共に、それが伝統文化とキリスト教との深層的な対立に根ざしていることが伺える。他方、非加入・DK/NA でも豊年祭の復活を喜ぶ住民が多く(ヒアリング: 表は割愛)、潜在的な賛同者は多いと考えられる。

IV まとめ

リーダー間に連携がなく、理事長が意思決定を独占している現状には、協会と行政の末端機関(里等)との関係に加え、親族集団や対人行動に見られるアミ族の特性及び三仙里における宗教上の特性が関わっている点に本事例の特徴がある。住民の意識において参加を阻害する要因は、①地域を統合する役割を担うリーダーの不在、②宗教的見解の影響、③協会と里との関係の不適合^{注7)}の3点である。社区の範囲や活動目的の変更は、現行の制度では実現性が低く、喪失された役割の再生は容易ではない。三仙里の社区营造においてはリーダー間の連携が喫緊の課題であるが、キリスト教会が社区营造を推進する事例^{注4)}があることから、住民が潜在的に伝統復活を肯定していることを念頭におき、理事長が、新しいリーダー層の育成等も考慮し、生活の場での住民との対話から共感者を増やし、共同意識を醸成する試みが望まれる。

謝辞: 本研究は科研費(21658081)の助成を受けて実施された。調査にあたり多大なご協力を受けた社区発展協

会理事長と三仙里の皆様様に心より感謝申し上げます。

注

- 注 1) 日本で使用される「先住民」は、中国語では「絶滅した民」の意であるため、一般的に「原住民」と著すことに従った。台湾では法律で 14 族が認定され(2011 年現在)、アミ族はその内人口規模が最大(約 38%)で、他民族との同化や混住が進んでいる。
- 注 2) 社区とは英語(Community)の訳語であり、曾⁹⁾は社区营造における社区を「一定の地理的範囲に集まって居住する一群の住民を要素とし、(社区に対し)共通の関心と目標を持つ住民が共同意識を形成する生命共同体」と定義する。
- 注 3) 住民が日常的に居住地を部落と表すのに使った。
- 注 4) 成功鎮全体の民族の比率はほぼ同率であるが⁸⁾、里別では統計がなく、民族の構成率は不明である。
- 注 5) 理事長は設立時に 200 名くらい集まったと記憶するが、転出・死亡等による更新がされず、正確な数は不明という。新規加入の促進も特になかったとのことで、本論では約 200 とした。三仙里成年住民の約 10%である。その多くはアミ族ということだが、名簿の公開はなく、民族の構成率は不明である。
- 注 6) DK は“do not know”, NA は“no answer”を意味する。無回答の割合が高いが、ヒアリングの結果、識字率の低さが一因と判明し、分析の対象とした。
- 注 7) 原住民に限らず、社区発展協会と地方政府の末端組織(里等)の関係の不適合は指摘されている¹⁰⁾。

参考文献

- 1) 社区発展協会章程範本: 行政院内政部社会司, <http://sowl.moi.gov.tw/06/law/08.htm>, 2011 年 7 月 28 日, 2011 年 7 月 29 日
- 2) 陳亮全(2008): 「まちづくり」は社区营造? (似田貝香門・大野秀敏・小泉秀樹・林森義・森反章夫編著, 『まちづくりの百科事典』, 丸善株式会社, 東京, pp. 228-230)
- 3) 上水流久彦(2005): 台湾漢民族のネットワーク構築の分析 - 台湾の都市人類学的研究 -, 漢水社, 広島
- 4) 梁炳琨・張長義(2005): 原住民部落観光的文化経済與社会資本 - 以山美社区為例 -, 地理学報, 39, 31-53 など
- 5) 鶴見和子(1989): 内発的発展論の系譜(鶴見和子・川田侃編著, 『内発的発展論』, 東京大学出版会, 東京, pp. 43-64)
- 6) 末成道男(1983): 台湾アミ族の社会組織と変化 - ムコ入り婚からヨメ入り婚へ -, 東京大学出版会, 東京
- 7) 高俊明(1987): 台湾の近代化とキリスト教, アジア文化研究, 4, 国際基督教大学, 67-79
- 8) 人口統計: 成功鎮戸政事務所, <http://www.chengkung-house.gov.tw/>, 2011 年 7 月 28 日, 2011 年 7 月 29 日
- 9) 原住民人口数統計資料: 行政院原住民族委員会, <http://www.apc.gov.tw/portal/index.html>, 2011 年 8 月 1 日, 2011 年 8 月 1 日
- 10) 曾旭正(2007): 台湾的社区营造, 遠足文化, 台北
- 11) 趙永茂(2005): 里的定位以及與区, 社区発展協会的關係, 中国地方自治, 58, 3-12 など

Summary: This is a case study of community development(CD) in Taiwan, and aims to clarify its issue. In this case, residents do not participate in CD plans, although they are successful. The result of the survey revealed 3 factors which obstruct participation; first, there is no leading person who can be totally at the head of the settlement although there are several leading persons, second, a conflict of concepts between community development's leader and Christianity, and finally, a disagreement of an attitude to CD between the CD association & the local administration. We can say that the issue of this case is that residents have to develop their common consciousness using communication such as a chat in the life.

キーワード(Keywords): 台湾(Taiwan), 社区营造(Community Development), 原住民(Indigenous people), 住民参加(Residents' participation), 阻害要因(Obstruction factors)

(2011 年 5 月 21 日 受付)

(2011 年 9 月 17 日 受理)